

2020年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475200299	事業の開始年月日	平成12年4月1日
		指定年月日	平成12年3月28日
法人名	医療法人社団三喜会		
事業所名	グループホーム中原		
所在地	( 211-0041 ) 神奈川県川崎市中原区下小田中3-2-25		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和2年11月30日	評価結果 市町村受理日	令和3年4月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、ご利用者ご自身で選択したり自己決定出来る場面を多く持ち、日々の暮らしの中にある楽しみや願いが少しでも実現出来るよう努めている。又、ご利用者の状態変化に素早く対応出来るよう看護師を配置し、看取りケアを行える体制を整えている。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年2月5日	評価機関 評価決定日	令和3年4月12日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR南武線「武蔵中原」駅から徒歩10分の静かな住宅街にあり、デイサービスを併設した1ユニットのグループホームです。近くには、安楽寺や公園もあり、利用者が気楽に行ける散歩の目標になっています。

<優れている点>

川崎市とは、かわさき基準(KIS)認証製品のモニター評価事業に参加、BPC(事業継続計画)の作成・かわさき健幸福寿プロジェクトなどで連携を深めています。健幸福寿プロジェクトでは、利用者と職員・パート各回に1名が参加しています。介護が必要になっても、利用者の「したい」「やりたい」を実現し、その人らしい生活を送ってもらうために、1年間一緒に学び、より質の高い介護サービスの実現を目指しています。このプロジェクトを指導している国際医療福祉大学竹内孝仁教授の研修で、認知症のケアは「水をしっかり飲んで、普通の食事をとり、運動をし、自然な排便を促す」この4本柱が大切と学んでいます。施設では、この指導を受け「常食にに勝るものなし」という観点で献立作成、食材購入、調理のすべてを職員が取り組み成果を上げています。

<工夫点>

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、面会は難しい状況ですが、ウェブの対面式の会話アプリを通して、顔を見ながら話せる機会を設け、支援に努めています。また法人アカウントのフェイスブックを開設し、ホームページからも家族が利用者の日頃の様子を知る手段として活用してもらうなど、利用者と家族との関りを大切にしています。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム中原
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	カンファレンスや勉強会を通じ、職員間で共有できるよう努めている。	理念は、来訪者にも分かるように玄関に掲示し、事務所にも掲示しています。法人の基本理念に基づき年度目標を作成し、目標達成のために取り組むテーマを決めて実践につなげています。また、職員間で申し送りや会議を行い統一化を図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	感染対策により、地域イベント中止となったり、直接触れ合うことが難しい状況となり、地域とのつながりがもてていない	法人が作成している広報誌「ファミリー」を、毎月市役所や区役所、自治会に配布して事業所の取り組みを伝えています。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため行えていませんが、収束後は市や自治会と連携して認知症についての相談会などを検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	直接的な貢献は出来ていないが、入居希望等の相談があった際は、そのつど丁寧に説明をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	感染対策のため、集まったの会議を自粛している。	運営推進会議は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため行えていませんが、年度末に総括として事業所の活動や取り組みを書面で配布する予定です。法人のフェイスブックを開設し、ホームページからも日頃の様子を知る手段として活用してもらおう取り組んでいます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	包括支援センターの方等との連携を図っている。 川崎モニターにも積極的に協力を行っている。	利用者の認定更新の時には職員が必ず立ち合いを行い、利用者の日々の様子や援助について具体的に伝えることで連携を深めています。また、かわさき基準（K I S）認証製品のモニター評価事業に参加し、専門的なアドバイスなどを行うなど、協力を努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	道路に面しており、防犯と安全確保のため、玄関は施錠している。	法人作成の高齢者虐待防止マニュアルをもとに、身体拘束をしないケアの実践に努めています。年2回、自己チェックシートを用いて、日々のケアの中に虐待に通じる行為はないか、「身体拘束ゼロ手引き」も活用して職員間で勉強会を行い周知に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的にチェックシートを用いながら、日々のケアの中に虐待に通じる行為はないか、職員間で勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する勉強会は行っていませんので職員全員が理解しているとはいえない。後見人制度を利用している人は、管理者が関係者とやり取りしているため、職員は制度を利用している人がいるという程度の認識である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用開始時に説明をし契約書にサインをいただいている。また契約内容の変更の際は文書等で確実な説明を行い、理解納得いただけるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族来所時のご意見や運営推進会議でのご意見等はカンファレンス等や連絡ノートを通して職員に周知し日々の介護業務に反映するよう努めている。毎月、施設側から一か月間の施設内の出来事や予定、個々の利用者の状況等を報告として送付している。	利用者の家族には、毎月状況報告を送付して利用者の日々の様子を伝えていきます。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、直接の面会などは行えていませんが、メールでも意見交換ができるよう案内文を送付して、意見や要望を出してもらえよう配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回のカンファレンスで業務改善やケア、その他について意見交換している。又、日々の申し送りや職員が気づいた時には、その時点で進言し検討する機会を設け反映している。	月1回のカンファレンスで、業務改善やケアやその他について意見交換や話し合いを行ない、調整や実践に結び付けています。また、日々の申し送りや職員が気づいた時には、その時点で進言し検討する機会を設け反映するよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事評価を行い職員の能力考査を行っている。パート職員については管理者がアンケートを作成し、日頃の業務の中で楽しく仕事が出来ているか不安はないかなどの把握に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人の介護部や居宅部で行っている研修への参加や市町村、社協等で行っている研修に参加出来るよう声掛けをしている。又、日々の業務の中で気がついた点について、その都度先輩スタッフ及び管理者が注意、指導等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	感染対策により、グループ協議会も中止となっており、交流が行えていない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始時、本人の状況や思いをアセスメントし職員が共有し本人がその人らしく生活出来るよう関係性の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始時に家族へ要望や意見を伺いケアプランに反映している。誕生日会、母の日、敬老会、運営推進会議等に参加していただけるようお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	開始時のご本人や家族の抱えている問題等を前ケアマネージャーやサービス提供者から情報を得て極力不安のない生活が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の出来る事や出来ない事を把握し、今まで出来ていたことが継続出来るよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、施設内の状況や本人の状態を報告している。又、必要時に電話でのやり取りをし家族の意見や意向を確認して、家族との関係性が有用であるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	認知症の進行に伴い外出の機会、家族の面会の減少などから馴染みの人、場所との関係は少なくなっている。ボランティアや職員と昔話や地域での祭事等で話題が広がるよう働きかけている。外出出来る利用者は職員と散歩に出たり家族と墓参りや食事に行く等している。	事業所の目の前に安楽寺があり、日々の散歩や正月には初詣に行くなど、地域との接点を大切にしています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、面会は難しい状況ですが、ウェブの対面式の会話アプリを通して、顔を見ながら話せる機会を設け支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し孤立しないよう声掛けをしたり、席の位置等も考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後の家族の様子など必要に応じて手紙や電話等で対応している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の申し送りの中で一人一人の状況や、利用者が言っていた内容を職員間で共有し個々の利用者に応じた対応が出来るようにしている。	毎日の申し送りの中で一人ひとりの状況を共有し、利用者に応じた対応が出来るよう努めています。アルコールが飲みたいと話す利用者には家族の了解を得て、ノンアルコールビールを提供して満足してもらおうなど、利用者と家族、職員との連携も大切にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス開始時に過去の生活状況をお聞きし、お掃除や洗濯物たたみなど出来る事は継続して出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の一日の生活状況や暮らし方の現状を把握し、個々の生活スタイルに合わせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を伺ったうえで本人の望む生活に向けて計画作成担当者はカンファレンスや日々の申し送り、居室担当者からの情報をもとに介護計画とモニタリングを行っている。	利用者との会話や表情など、日々の関りの中から利用者の思いを把握するよう努めています。また、各利用者の活動記録の中に、職員の気づきなども記載して、利用者の情報を把握し、現状に即したケアプランにつなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の個別記録や職員間の連絡ノートに新たに得た情報を記載し、職員が共有出来るよう努めている。又、医療の情報や処置の指導についても個人記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族が対応出来ない時の受診介助（歯科や皮膚科等）や外出には職員の勤務を調整して柔軟に対応出来るよう努めている。 衣類や生活物品で必要になったものは、家族にも相談のうえで職員と共に購入している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の情報を得るよう努めているが、資源の活用とまではなっていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個々に月二回の往診を受けている。又、必要な時には臨時往診もしている。他科受診は家族が対応出来ない時や緊急時は職員が対応している。	医療法人の経営であり感染予防策等にも的確なサポートがあります。主治医は悠翔会在宅クリニック川崎の医師により月二回の往診があります。入居前から継続している病院などへの通院は健康状態を把握するため原則家族に依頼しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は日々の業務で気づいた事や変化を看護師に報告し、利用者に適切な看護医療が受けられるよう支援している。看護師は介護職員に介護指導や観察ポイントなどアドバイスしている。看護師は医師との連絡報告を常に行い個々の利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には安心して治療に専念していただけるよう病院関係者、医療関係者、家族との連携を密にしている。入院中の病院訪問も密に行い家族への報告も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族に終末期のあり方を確認し希望に添えるよう努めているが、施設内で出来ないこともあることを了解していただいている。看護師は終末時の観察やケア、看取りの対応について勉強会を行ったり看取りの実際の場で指導している。	病状の悪化が予測される場合に、主治医から家族に説明を行い、治療の方針を確認、施設での看取りを希望する場合に病状に合わせて説明と同意を行っています。2019年度にも看取りがあり、主治医との情報共有と急変した際の手順確認をして実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急マニュアルにそって対応出来るよう勉強会を行っている。又、夜間は職員が一人になるので近隣の職員の協力を得ることもある。緊急連絡網の更新を都度行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練は同一建物内であるデイサービスと合同で行っている。備蓄は水、食料、おむつ、利用者の緊急時ファイル等を持ち出し用としている。	今年度の防災訓練は、コロナ禍で1回夜間想定で実施しています。SNSを使った緊急連絡網も作成しています。運営法人の職員派遣や物資提供などのBPC（事業継続計画）がありますが、川崎市からの指導で、施設単独のBPCを作成、提出しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報、プライバシー保護について勉強会を行っている。又、日々の業務の中で気になる点について注意したりカンファレンス内において話し合っている。	日頃から利用者への対応では、同じことを何度も話したり、つじつまの合わない話であっても、否定することはしないよう注意しています。趣味や幼いころの思い出、健康の悩みなど、利用者の思いに共感できる姿勢で接する事の大切さを学んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が話したい時には、極力傾聴するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	主体は利用者であることを常に意識し本人の思い、希望を最優先しているが、職員のペースになっている時には注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整髪、爪切り等は状況をみながら行っている。服装についても好みがある利用者には本人の意向を聞いている。髪染めの希望がある際には、本人の了解のもとでカラーリングも行う。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の利用者の好みや食事形態について考慮している。又、食べたいものについて要望を聞き、献立に取り入れるようにしている。	国際医療福祉大学・竹内孝仁教授が認知症のケアとして奨励している、水分摂取・高たんぱくの食事・運動・排便の4本柱に取り組んでいます。常食に勝るものなしという理論実践で、献立の作成から食材購入調理すべて職員が実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取量を毎日チェックし、栄養が偏らないよう把握をしている。補食として、補助食品や飲料を提供し、必要な栄養がきちんと摂れるよう働きかけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、個々の能力に応じて口腔ケアが出来るよう支援している。又、一人で出来ない利用者には、食事、おやつ後に口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の利用者の行動を観察し、排泄のタイミングがつかめるよう支援しトイレに誘導している。	オムツは使用しない基本方針でトイレの便座に座ることを大切に支援するため、一人ひとりの活動記録が残されています。病院ではオムツを使用していた人も、入居後食事の後や夜にもトイレに座るように支援し、オムツが不要になった事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食物繊維不足を補う為、白米には胚芽押麦を足し提供している。また、おやつ時にはヨーグルトとオリゴ糖を提供する等、食事の工夫を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	個々の利用者の希望に応じた入浴が出来るよう努めている。利用者の状況により2人介助で入っていただいている。少しでも季節感を味わっていただけるように、しょうぶ湯やゆず湯なども取り入れている。	利用者に入浴を勧める職員には「目を合わせて話しかける」「動作をわかるように伝えてから動く」など、基本的な手順を徹底しています。週2回、気持ちよく入浴してもらえるように指導しています。浴室、湯船などの清潔さを保つことも、心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の状態に応じ就寝時間に合わせた睡眠が出来るよう支援している。午睡をされる人、又夜遅い方にはお話し相手になるなどの対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の利用者の服薬内容を把握し安全な服薬が出来るよう努めている。又、日々の健康チェックや状態を医師に報告し薬の調整をしていただいている。内服薬での疑問点には、薬剤師への相談も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の生活歴や嗜好の把握に努めている。出来ることが継続出来るよう洗濯物たたみやお掃除など職員とともに行っていただいている。又、四季折々の行事食を取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の重度化により外出の機会が少なくなっているが、日向ぼっこや車いすでの短時間の散歩など極力取り入れるよう努めている。又、外出希望のある利用者には職員がボランティアで支援している。受診の帰りにドライブすることもある。	コロナ禍での制約はありますが、医師の指導も得て、人が密にならない公園や安楽寺境内等への散歩は、積極的に行っています。居室が2階にあるため階段を活用したり、事業所敷地内の周囲を歩くなど、運動を欠かさないように工夫しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が出来る状態ではなく、すべての方が施設での管理となっている。本人が購入を希望するものについては、職員が代理または、店舗へ利用者と同行して購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	認知力の低下や家族との交流の少ない利用者のため難しい状況にあるが、必要時は電話やビデオ通話で話していただくこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部分は清潔に使い、勝手の良い空間であるよう努めている。利用者が読んだ俳句やぬり絵などを掲示している。又、写真等も掲示出来るよう掲示板を多めに取り付けている。	リビングとは反対のスペースにソファを置き、外を眺めて落ち着ける場所があります。春～秋は花を飾り季節感を演出しています。利用者の作品やイベント写真を掲示して思い出を共有しています。共用部分の掃き掃除やモップ掛けを手伝える利用者には、頼んで一緒に清掃をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	構造上の問題から十分とは言えないが、日当たりの良い廊下に椅子を置くなどして、個の場所も確保できるよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室は本人の馴染みの物や好みのレイアウトにしてあり机、テレビ、仏壇等を置いている。危険防止の観点からタンスなど持ち帰っていただいた部屋もある。又、最初から何もない部屋もある。	居室担当者は、各居室の清掃、ゴミ捨て、部屋の換気等を利用者本人と一緒にを行っています。また、日常生活写真なども添付して月1回家族への近況報告を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各個人の出来る事や出来ない事を把握し安全に生活していただける努めている。歩行が不安定な方には付き添って歩いたり、出来る事への手助けや声掛けし職員と一緒にいたりしている。		

2020年度

事業所名 グループホーム中原

作成日： 2021 年 2 月 13 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6,8	コロナ禍により、直接的な交流が行いにくくなっているため、ご家族との意見交換が希薄になりつつある。 また、ご利用者のなじみある関係が保ちづらくなっている。	ご利用者の様子を知ってもらいやすくできるように、ご家族との意見交換が図りやすいように環境を整える。	①WEBを活用した面会が簡単に行えるようにマニュアル整備を行う。 ②WEBを活用しやすいように、ご家族や地域に案内を行う。	4ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月